

令和7年度丹後織物人材育成研修実施要領

- 1 目的 丹後地域の基幹産業である織物製造や関連工程に関わる人材に対して研修を行い、産地の生産体制を維持することを目的とする。
- 2 内容 織物に関する基礎知識や、製造に係る技術や技能を学ぶ15コースを実施する。各コースの概要や実施予定時期は以下の表のとおりとする。
- 3 主催 京都府織物・機械金属振興センター
- 4 対象者 丹後地域等の織物製造や関連工程の事業者、に、従事またはこれから従事しようとする者とする。
- 5 申込等 各コースの申込方法及び定員等は、開講約 1 カ月前に当センターのホームページ等に掲載する募集案内に示す。

番号	コース名	講師	回数 (予定)	概要	実施時期 (予定)
1	織物基礎【対面方式】	当センター職員	3 時間×5 回	織物の製造に必要な知識について、実際に顕微鏡、試験機、撚糸機、織機等を利用して学びます。	5月～6月
2	織物基礎【オンライン方式】	当センター職員	2 時間×3 回	織物の製造に必要な知識について、オンラインで学びます。	6月
3	製織準備【整経】	当センター職員	3 時間×4 回	整経に必要な知識や、部分整経機を使用した整経の作業を学びます。	11 月
4	製織準備【たて継ぎ(手つなぎ)】	当センター職員	3 時間×2 回	手つなぎによる、たて継ぎの作業を学びます。	6 月
5	製織準備【たて継ぎ(機械つなぎ)】	外部講師 当センター講師	6 時間×1 回	たて継ぎ機を利用した、たて継ぎの作業を学びます。	10 月
6	製織【基礎】	当センター職員	3 時間×最大 24 回	製織に従事され始めた方を対象にマンツーマンで、糸の扱い方、織機の操作、織り合わせ等を学びます。	5 月～9 月
7	製織【応用】	外部講師	3 時間×8 回	織機やジャカードの日頃の調整、作業環境の整備等について、質疑応答形式で学びます。	10 月～11 月
8	織物組織と紋織技術	外部講師	3 時間×10 回	織物組織と機拵えの関係を明確にし、紋データ作成の技術を学びます。	7 月～9 月
9	織機調整【シャトル基礎】	外部講師	3 時間×10 回	シャトル織機の調整方法を学びます。	9 月～10 月
10	織機調整【レピア基礎】	外部講師	3 時間×3 回	レピア織機の調整方法を学びます。	11 月
11	新商品開発【AI とデジタル捺染】	外部講師 当センター講師	3 時間×6 回	AI でプリント柄を生成し、デジタル捺染をします。また、その販売促進ツールのデザイン手法を学びます。	6 月～7 月
12	新商品開発【縫製】	外部講師	3 時間×15 回	ファッション製品を試作縫製する知識や手法を学びます。	7 月～9 月
13	新商品開発【ものづくり&機器活用】	当センター職員	調整のうえ決定	センターが保有する機器を利用して、新商品を開発する手法を学びます。	4 月～12 月
14	現場実践研修	外部講師 当センター職員	調整のうえ決定	講師が企業の現場に赴き、研修で学んだ内容を企業の現場で実践する手法を学びます。	4 月～12 月
15	現地セミナー	未定	1 回	商品開発、販路開拓、生産基盤の維持・発展に向けて、先進的に取り組んでいる企業等を見学します。	9 月